

第3回

減らそう 生ごみ

シリーズ
187万都市の
課題

待ったなし! ごみ減量

ごみ処理には、多額の費用が掛かるほか、
環境負荷の増大や
埋め立て地の容量に限りがあるなど、
さまざまな課題があります。
これを解決するには、ごみを少なくするのが一番。
まずは、家庭から出る生ごみの
減量から始めてみませんか？

詳細

生ごみの減量については、ごみ減量推進課 ☎211-2928
審議会については、環境局計画課 ☎211-2912
審議会の情報などはホームページをご覧ください
<HPアドレス> www.city.sapporo.jp/seiso/



↑山本埋め立て処理場(東米里地区)

白石清掃工場のごみピット(一時集積場) ↑

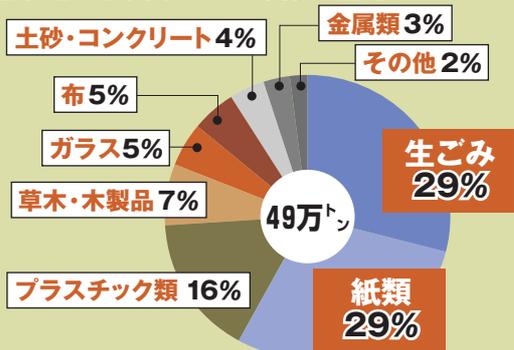
埋め立て地の寿命

→ 残り約 **15** 年

平成16年度の埋め立て量を継続した場合、あと15年程で埋め立て地が満杯になります。広大な面積の土地と、近隣住民の理解が必要なことから、市内に新たな埋め立て地を確保するのは、大変難しい状況にあります。

なぜ、生ごみの減量が必要なの？

■家庭から出るごみの内訳(重さ)



平成16年度の調査より推計

家庭から出る1年間のごみの量は、札幌ドーム3杯分の量に相当し、重さは49万トン。このうち、生ごみと紙類が6割を占めており、これらは、清掃工場で焼却され、灰として埋め立てられています。一人一人が生ごみや紙ごみを減らすことは、ごみの焼却に伴う環境負荷を減らすばかりでなく、埋め立て地の延命にもつながります。